

## 1-12 歳児の予防接種スケジュール

ワクチン名		年齢 種類	1 歳				2 歳	3 歳	4 歳	5-6 歳	7 歳	8 歳	9-10 歳	11-12 歳
			0-3 か月	4-6 か月	7-9 か月	10-11 か月								
ヒブ	定期	不活化	追加 ※1											
小児用肺炎球菌	定期	不活化	追加 ※2											
四種混合 (DPT+IPV)	定期	不活化		追加 ※3										
二種混合 2 期 (DT)	定期	不活化											2 期 ※4	
麻疹・風疹混合 (MR)	定期	生	1 期					2 期 ※5						
みずぼうそう (水痘)	定期	生	①	②※6										
おたふくかぜ (ムンプス)	任意	生	①					② ※7						
日本脳炎	定期	不活化					1 期※8 ①②追加					2 期		
インフルエンザ	任意	不活化												

推奨接種期間

接種可能期間

## 1-12 歳児の予防接種スケジュール

- ※1：ヒブの追加接種は、初回接種終了後、7 か月以上の間隔をあけて、かつ1 歳を超えていれば接種可能となります。
- ※2：小児用肺炎球菌の追加接種は、初回接種終了後、60 日以上の間隔をあけて、かつ1 歳を超えて12～15 か月が標準的な接種期間となります。
- ※3：四種混合の追加接種は、初回接種終了後、12～18 か月が標準的な接種期間となります。
- ※4：二種混合の第2 期接種は、11 歳以上、13 歳未満が対象期間となります。
- ※5：MR（麻疹・風疹混合）の第2 期接種は、小学校就学前の1 年間に接種対象期間となります。
- ※6：水痘は、1 歳以降に1 回接種し、6 か月あけて追加接種をします（1 歳6 か月までに1 回接種し、2 回目は1 歳6 か月以上で、1 回目より3 か月の間隔が開いていれば接種は可能です）。
- ※7：おたふくかぜは、1 歳以降に1 回接種し、小学校就学前の1 年間に追加接種をします。ただし、1 回の接種で免疫が獲得される確率は80%、2 回の接種で98% となるため、流行期に入っている場合は、2 回目の接種を早めても構いません（医学生などは4 週間あけて2 回目を接種しています）。
- ※8：日本脳炎予防接種の接種対象年齢は、現在、下記の通りの移行措置があります。
  - **平成7 年（1995 年）4 月2 日～平成19 年（2007 年）4 月1 日生まれ**の方で、今まで日本脳炎の予防接種を受けられなかった方は、対象年齢外（7 歳6 か月以上9 歳未満、あるいは13 歳以上）であっても第1 期・第2 期予防接種が公費負担で可能です。
  - **平成19 年（2008 年）4 月2 日から平成21 年（2010 年）10 月1 日生まれ**の方は、3 歳以上7 歳6 か月未満、9 歳以上13 歳未満の間は定期接種として、不足分の予防接種ができます。
  - また京都市では、独自の制度として3 歳以上が公費負担の対象となっていました。平成25 年（2013 年）4 月1 日より、**生後6 か月以上も公費負担の対象となりました。**
  - 平成28 年2 月23 日に日本小児科学会より「日本脳炎ワクチン罹患リスクの高い物に対する、生後6 か月からの日本脳炎ワクチンの勧奨について」という声明が出され、日本脳炎が流行する地域に渡航・滞在する小児、最近日本脳炎の患者が発生した地域やブタの抗体保有率が高い地域に居住する小児は、生後6 か月からの接種が推奨されています。当院でもご相談に応じます。